2022年度看護学科卒業生に実施した
ホームカミングディの紹介と課題

前山 直美

［研究ノート］ 2022年度看護学科卒業生に実施したホームカミングディの紹介と課題

前山直美

健康医療科学部看護学科

Introduction to Homecoming Day held for 2022 Nursing Department graduates and its challenges

Naomi MAEYAMA

Abstract

We discussed the introduction and assignments for Homecoming Day held for 2022 Nursing Department graduates. Homecoming Day is the first attempt at the school's opening.
The purpose of holding Homecoming Day is (1) to provide a time to refresh, and (2) to provide a place for interaction with alumni and faculty. The event was attended by 30 alumni and 7 faculty members. Participants' satisfaction with Homecoming Day was high.
It was suggested that Homecoming Day is extremely important as a system to support graduates both at educational institutions and at job opportunities.

Keywords: Homecoming Day, Nursing department graduate, Job Adaptation, Reality shock.

1.　はじめに

厚生労働書によると看護師等の就業の現状は、1990年83.4万人から2020年173.4万人に倍増している。しかし2025年需給推計[1]によると、2025年の看護師等の需要数の推計値は180.2万人必要であり、現状の少子高齢化の進行に伴い、生産年齢人口が急減していく中で、さらに看護師等の確保の推進が必要であるとの見方を示している。

「保健師助産師看護師法」「看護師の人材確保の促進に関する法律」の改正により2010年4月から新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化となった。全国の病院・施設では新人看護職員の看護の質向上、医療安全、早期離職防止の観点から卒後臨床研修を様々な方法で取り組み新卒看護職が就職後に看護基礎教育で形成された看護の理想と現実の間にギャップを感じることによって生じる身体的・精神的・社会的なものを含む総合的な現象から職場になれず辞めていくリアリティショックの予防に努めている。

そのような中、2019 年度末に発生した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の世界的な流行により、我が国でも、2020 年 2 月以降から感染者が急増し、医療機関は COVID 19 患者のみならずクラスタ発生、外来患者受け入れ停止、面会制限などの大きな混乱が起きた。

一方、教育機関では、文部科学省と厚生労働省から「COVID-19の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所の対応について、実習中止、休講等の学生で修学の差がでない配慮を行うこと、実習施設の変更、年度をまたぐことを検討しても代替が困難な場合、実情を踏まえて学内実習等で知識技術を修得することとして差支えない」とする主旨の通知がなされた[2]。それを受けて、全国の看護師養成学校は看護学生の臨地実習の縮小化を是正するために、学内実習によって知識技術を修得する学習形態へと変更していった。

2020年12月一般社団法人日本看護系大学協議会が実施した「COVID-19に伴う看護学実習への影響調査」によると当協会加盟校の80.1%が学内実習へ変更している[3]。

本学の領域別看護学実習は３年次の後期から４年次前期にかけて行われておりCOVID-19感染拡大が続く社会情勢の中であるが知識・技術を統合し、看護実践力を養う臨地実習は学生の貴重な学習の場であることから実習施設と受け入れ調整の検討を重ね、実習期間を短縮し、学内実習を取り入れることを決定した。また学内感染拡大を懸念、入構制限の指定がされ1週間当たり5日間の実習日数を対面による学内実習3日間、2日間を在宅でのオンライン実習とした看護学科独自の「学内実習基準」を作成しそれに基づき実習が行われた[4]。

しかし、卒業時の学生から臨地実習の減少に伴う看護技術の習得不足や看護対象者とのコミュニケーションスキルに関する不安を感じるという声が聞かれた。一般に就職後１ヶ月と３ヶ月後の職務上の困難は、看護技術、専門知識、業務遂行に関するものが多い[5]ことから社会に飛び立つ卒業生に心配を隠せない教員も存在していた。

2023年3月日本看護協会は「2022年病院看護実態調査において新卒看護職員離職率は10.3%と2005年以降初めて10%を超えた。さらに早退職者が増加したと回答した病院は約35%と昨年度調査よりも増加していた。離職率増

加の背景には新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったと考えられる」と調査結果を公表している[6]。

本学科は地域の医療機関の強い要望に後押しされて 2015 年開校し 2023 年 3 月に 5 回生が卒業した。先行研究ではリアリティショックは就職後 3 ヶ月までの時期に起こりやすいと報告されており、特に「精神的要因」「看護実践能力」が高いとされている[7]ことから、職場適応を阻害する大きな原因となり、さらには離職の原因となる。また新卒者が離職を考えたとき、その解決方法は同期の同僚と話すことであるといわれている[7]。

以上のことから就職後 2 ヶ月が過ぎた 5 月に卒業生同志で近況を報告し合う時間の提供と卒業生および教員との交流の場の提供を目的としホームカミングディを開催することにした。

そこで本学科開学後初めて取り組んだホームカミングディの紹介を行い、卒業生の近況報告内容や終了後アンケートからホームカミングディの意義や効果について検討することにした。

１．目的

ホームカミングディが 2022 年度卒業生の職場適応や困難さの課題解決に向けての一助になっているかその意義や効果について明らかにする。

２．用語の操作的定義

1) リアリティショック:「基礎教育終了時点の能力」と「臨床現場で求められる能力に大幅なギャップを生じること」であり、現実と理想のギャップに衝撃をうけること。

2) 職場適応：新卒看護師が職場の上司関係、同僚関係、患者関係、職場自立度、職場環境、仕事関係、職場規則に適応すること。

３．ホームカミングディの概要

3-1 ホームカミングディの目的

1) 職場での体験などの近況報告や学生時代の思い出を同窓生や教員と話し合いリフレッシュできる時間の提供。
2) 卒業生および教員との交流の場の提供。

3-2 事前準備

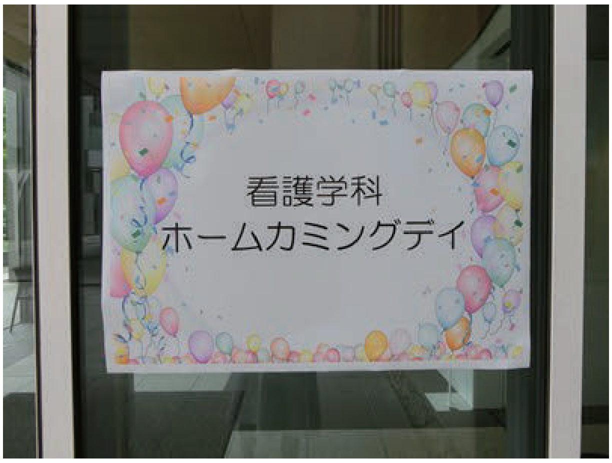
1) 3 月学科教授会において 2023 年度看護学科キャリア就職委員会活動計画「ホームカミングディ開催」計画(案)を審議し承認を得る。
2) 本部キャリア就職委員へ協力依頼し、承認を得る
3) 卒業生が就職した病院・施設をリストアップし 4/10 看護部長宛てに卒業生のホームカミングディ派遣依頼状を送付し業務調整等の協力依頼をした。また卒業生宛の案内状を同封し卒業生への連絡を依頼した。
4) 卒業生の出欠席は QR コードとし、5/15 (月) を締め切りとした。

3-3 実施日時

2023 年 5 月 20 日 (土) 14：00～15：30

3-4 会場準備

会場は卒業生が 4 年間の学生生活において利用頻度が高い K4 号館 4201 教室とし、参加者全員の顔が見えるよう椅子の配置を行った。また歓迎の気持ちをこめた環境設定を行った [写真]。



3-5 進行内容

学科長による歓迎の挨拶、卒業生の近況報告の時間を設けその後は交流会とし自由に語り合い、終わりにクラス担任はじめ他の教員、学科長補佐から激励の言葉をいただき閉会とした。

3-6 データ収集方法

ホームカミングディ参加者に研究の目的、意義、方法について口頭で説明し、Forms で回答を求めた。

4. 結果

4-1. 出席状況

30名の卒業生が出席（出席率55.6%）した。教員は学科長はじめクラス担任教員、その他の教員の7名が参加した。

4-2. アンケート結果

アンケート内容は1）開催時期について2）参加動機について3）参加してよかったこと4）その他意見とし、ホームカミングディ終了後にFormsで回答を求めた。

出席者30名のうち28名（93.3%）から回答があった。

1）開催日・時間について　（表1）

表1から開催日および時間は適切だったと90%以上の参加者が回答した。

表1. 開催時期について　(n＝28)

人数（%）

	適切	どちらでもない	適切でない
開催日	26 (92.9)	2 (7.1)	0 (0)
開催時間	27 (96.5)	0 (0)	1 (0.35)

2）参加動機について（表2）

表2は参加動機について原文のまま示し、共通するものをカテゴリーごとに分類した。16人（57.1%）が「(みんなに・教員に) 会いたかった」、7名（25%）が「近況報告したい」を参加動機として回答した。

3）参加してよかったこと（表3）

表3は原文のまま示し共通するものをカテゴリーごとに分類した。ホームカミングディに参加してよかったことは「みんな頑張っていることを知り自分も頑張ろうと思った」「みんなの状況や体験が聞けたこと」「同級生や先生に会えたこと」「久しぶりに会ってたくさん話せたこと」であった。

また卒業生同士で話すことで「入職して1ヶ月ちょっと、できないことがあっても少しずつできるようになっていけば良いと思えた」「悩んでる事などを皆と共有出来て、スッキリすることが出来た」と回答した。

4）その他感想及び意見（表4）

表4はその他感想意見を原文のまま示し共通するものをカテゴリーごとに分類した。「ホームカミングディを定期的に開催希望」「有意義な時間を過ごせた」「母校へ感謝」の内容であった。

5. 考察

1．職場適応の状況について

新卒看護師のリアリティショクは職場適応を阻害する大きな原因である。新卒看護師は「わからない」「できない」「自信がない」ことを認識すると「思考力が低下」し「ケアしたいが手が出せない」[9]など職場での不適応な状態につながっていく。また人間関係の未熟さや力量不足、業務量の多さ、看護の優先順位を考えて行えないことなど学生時代に学んだことと現実のギャップに多くの不安やストレスを感じており自尊感情が低下している[10]と言われており、職場適応の認識と適応対策を共有することができた。具体的には職場での体験で嬉しかったことやつらかったこと、苦労していることなどを卒業生全員で近況を語り合った。

新卒看護師として日々経験する出来事に「そうそう」と相槌をうちながら真剣に聞き入る姿や時に爆笑する姿は、気心の知れた仲間同士だからこそできるのだと考える。さらにアンケート結果表3に「・・・できないことがあっても少しずつできるようになっていけば良いと思えた」や「悩んでいる事などを皆で共有できてスッキリすることができた」があり、悩んでいるのは自分だけではない、みんな一緒だという安心感につながったと考える。

また「みんなが頑張っていることを知れて自分も頑張ろうと思えた」表4の「悩んでいるのは自分一人ではないと思えた」とあるようにホームカミングディに参加したことで前向きに現状をとらえる時間をもてたこと。さらにその解決策を同期と話すことで、リアリティショックの緩和、職場適応の促進に効果があると考える。

2．ホームカミングディの意義及び効果について

近況報告を終えた後に同窓生や教員との交流を自由な形式で行った。アンケート結果に「同級生や先生に会えてよかった」「先生といっぱい喋れた」「・・・昔の思い出を話したりてとても有意義な時間になった」「色んな人と久しぶりに話せてとても楽しかった」などあり、短い時間だったが同窓生や教員との交流が十分にできたと考える。

今回一部の教員参加としたが「教員に会いたかった」「近況報告したい」「担任の先生に会いたかった」の意見から参加教員の検討が必要だと考える。

「今後も開催してほしい」「他学年合同でやりたい」「機会があれば参加したい」などからホームカミングディ継続開催の期待は大きいと考える。頂いたご意見を検討し、教育機関としての役割を模索しながらホームカミングディを継続していきたいと考える。

本学には学生支援室があり在学生を支える体制はあるが卒業生は対象でない。臨床現場が医療の高度化や対象の多様化などによりテクニカルな看護技術の習得に加え業務を覚えるといった負担が大きい。同窓生同士で安心して同じ悩みを共有する場の提供に取り組む教育機関の活動は大変意義深いと考える。

5. おわりに

2022 年度卒業生に対し就職後 3 ヶ月目を迎える時期に学科開学後初めてのホームカミングディを開催した。リアリティショックの緩和に貢献できたか不明であるが、卒業生にとっても教員にとっても大変価値あるものとなった。さらに教育機関と就職先の両輪で卒業生を支える体制としてホームカミングディは大変重要であると示唆を得ることができた。

この取り組みの参加を研修扱いとし業務調整などご協力いただいた就職先の施設長様及び看護部長様に深く感謝申し上げます。

参考文献

[1] 「医療従事者の需給に関する検討会看護職員需給分科会中間とりまとめ」(2019 年 11 月 15 日とりまとめ）における 2025 年の看護師等の需給推計 (2023 年 9 月 10 日アクセス)
https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001118188.pdf

［2］2020 年 2 月 28 日発令,文部科学省,厚生労働省.新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について（2021 年 9 月 6 日アクセス）
https://www.mhlw.go.jp/content/000605026.pdf

[3] 一般社団法人日本看護系大学協会：「COVID-19に伴う看護学実習への影響調査（2021年12月27日アクセス）
https://www.janpu.or.jp/wp/wpcontent/uploads/2021/04/covid-19cyousaAB.pdf

［4］前山直美　青木真希子　松沢祐子：COVID19 状況下における母性看護学実習形態変更による学生の学び
神奈川工科大学研究報告/A-46　人文社会科学編/通巻 46 号/11-17/2022

［5］濱元淳子　井上範江他：新卒看護師の職場適応を促す先輩看護師の効果的な関わり．日本赤十字九州国際看護大学紀要 11 号/11-24/2012

［6］公益社団法人日本看護協会 広報部：2022 年病院看護実態調査結果（2023 年 9 月 10 日アクセス）
https://www.nurse.or.jp/home/assets/20230301_nl04.pdf

［7］片桐 麻希　坂江 千寿子：新卒看護師の離職理由と就業継続に必要とされる支援内容に関する文献検討（2023 年 9 月 10 日アクセス）
https://core.ac.uk/download/pdf/229032733.pdf

［8］赤塚あさ子：急性期病院における新卒看護師の職場適応に関する研究―勤務継続を困難にする要因を中心に― The Journal of the Japan Academy of Nursing Administration and Policies.Vol.16,No2./119-129/2012.

［9］井部俊子：看護系大学新卒者の臨床実践能力. 病院 61（4）/288-295/2002.

［10］石井くみ子　中村美知子：新卒看護師の職場適応状況と指導対策の検討―非職場適応者・適応者と指導者の認識の相違―山梨大学看護学会誌 14 号/1-9/2015.

表2. 参加動機 (n=28)

カテゴリー	内　　容　（原文まま）	人
会いたかった 16人 (57.1%)	みんなに会いたかった	5
	卒業してから、先生や同級生に会う機会がなかなかなかったため	3
	なかなか勤務が合わなくて会えてない友達に会えると思ったから	2
	休日で友人と会うことが出来ると考えたため	2
	先生に会いたかったから	2
	来たかった	1
	久しぶりに訪問したかった	1
近況報告したい 7名 (25%)	皆の近況を知りたかったから	4
	みんなと話す機会が滅多にないため	2
	大学時代の友人と現状について語るため	1
その他 5名 (17.9%)	出張だったから	4
	ホームカミングデイの案内のお知らせをいただいたため	1

表3. 参加してよかったこと　複数回答

カテゴリー	内　　容　（原文まま）	人
勇気をもらった	・みんなが頑張ってることを知れて自分も頑張ろうと思えた	8
楽しかった	・みんなの話（状況・体験）を聞けて楽しかった	6
	・他の病院のこと聞けて面白かったし、楽しかった	2
たくさん話せた	・卒業後に会えていなかった友達とも久しぶりに会って話すことができて良かった	3
	・先生といっぱい喋れた事	1
	・たくさん話せた	1
同級生や教員に会えたこと	・同級生や先生に会えたこと	5
	・久しぶりに友の顔を見れたこと	1
	・新実先生に会えてよかった	1
安心した	・入職して1ヶ月ちょっと、できないことがあっても少しずつできるようになっていけば良いと思えた	1
	・悩んでる事などを皆と共有出来て、スッキリすることが出来た	1
	・みんなの顔を見れて安心した	1
	・皆が頑張っているのが分かって良かった	1
	・懐かしい雰囲気に浸れたこと	1

表4. その他　感想・意見　　　　　　　　　　　　　　　　複数回答

カテゴリー	内　容　（原文まま）
定期的に開催希望	・職場に連絡してくれたのでみんな来やすかったと思います。定期的に開催して欲しいと思いました ・来る来ないは別として、ホームカミングデイの開催は良いものだと思います。自身のリフレッシュにもなるので来年の新卒の方にもやると良いと思いました ・また開催されることを楽しみにしてます。 ・また機会があれば参加したい ・今後もこういったことがあったら嬉しいです ・ランチ込みでやるのも楽しそうだなと思いました ・担任を持っていただいていた先生にできればお会いしたかったです ・他学年合同でもやりたい ・遠くの都道府県に行ってしまった方などは参加が難しいことも考えられるので、対面式も実施しつつオンラインでも繋げられたらいいかなと思いました。
有意義な時間を過ごせた	・色んな人と久しぶりに話せてとても楽しかったです ・現状話したり、昔の思い出を話したりてとても有意義な時間になった ・悩んでるのは自分一人ではないと思えた
母校へ感謝	・今働いていて感じるのは工科大学で良かったなということです。救急センターで様々な医療機器を取り扱うのですが、授業で習ったものが多く、知っていると「凄いね」って褒められます。それと同時に実際に触ったりしてもっと勉強しておけば良かったと思いました。医療機器は国試に出ないけれど、臨床の場ではとても大切で、臨床工学科の人と一緒に授業を受けれたら良かったなと思います。 毎日楽しく看護師として働けているのは、先生方が学生時代に沢山のことを教えてくださったからであり、神奈川工科大学に通っていたから厚木市立病院に出会うことができました。神奈川工科大学も厚木市立病院も私には合っていて、選んで良かったなと思いました。
	・開催して頂きありがとうございました

研究推進機構
機　構　長　脇田　敏裕
機構企画室長　井藤　晴久

神奈川工科大学研究報告

A–48　人文社会科学編　通巻 48 号

令和 6 年 3 月 1 日　発行

編集兼発行者　神 奈 川 工 科 大 学
〒 243–0292　神奈川県厚木市下荻野1030
電　話　046-241-6221

印　刷　者　株式会社スクールパートナーズ

当該研究報告に掲載された論文の著作権は本学に帰属する。